

平成22年度 京・地域福祉パイロット事業実績報告一覧

事業名	実施主体
1 災害にも強いまちづくり みんなで支える要援護者支援	大宮社会福祉協議会
2 小野郷まちづくりプロジェクト	小野郷自治会
3 紫野カルチャー亭 お年寄りもイキイキ!! 聞き書きプロジェクト	紫野カルチャー亭運営協議会
4 地域交流事業「KYOTO☆R24」～八条坊門楽市・楽座Ⅰ～」及び 地域高齢者サロン「すこやかサロン（仮称）」事業	崇仁高齢者ネットワーク「うるおいネット」
5 一人暮らし（独居）高齢者への「今月のおたより」	桂川福祉ネットワーク
6 川岡学区独居高齢者が地域で安心安全に暮す為の地域福祉推進事業	川岡学区民生児童委員協議会
7 地域福祉 ふれあい事業	藤森学区社会福祉協議会
8 おやじとふれあい木工教室	小栗栖宮山小学校おやじの会
9 高次脳機能障害者支援事業	頭部外傷や病気による後遺症を持つ若者と家族の会
10 外国人母子をことばで支援するコミュニティ通訳（医療・行政通訳） の育成	NPO 法人 多文化共生センターきょうと
11 子育て応援講座～子どもも大人も共に育つ地域づくり～	財団法人 京都 YWCA

☆平成２２年度 「京（みやこ）・地域福祉パイロット事業」実績報告一覧

事業名	実施主体	対象地域	事業実績
災害にも強いまちづくり みんなで支える要援護者支援	大宮社会福祉協議会	北区 大宮学区 ※小地域	１ 事業内容 災害時要援護者の支援を行う中で、住民同士の顔が見える関係をつくり、自らの地域を知るきっかけを提供し、課題や成果を共有する。 ２ 実績 「防災と福祉のまちづくり講座」（年５回開催） 第１回 ６/26 講義「要配慮者支援とは」（参加者８１人） 第２回 ８/28 ワークショップ「地域のお宝探し（資源）」（参加者４８人） 第３回 10/23 ワークショップ「地域の課題探し」（参加者５３人） 第４回 12/18 資源マップ作成に向けたまち歩き（参加者６４人） 第５回 ２/19 資源マップの確認、今年度の活動のまとめ（参加者７０人） ３ 活動成果 １年間の講座を通して、学区の防災と福祉に対する意識が徐々に高まり、講座への参加者も増えた。 活動の成果物として、一時集合場所や福祉施設等を書き込んだ「資源マップ」を作成し、全戸に配布した。 ４ 事業経費等 助成金額：５０，０００円、 事業経費合計：３００，０００円（支出項目〔印刷費：３００，０００円〕） ５ 今後の活動 ほとんどの町内会長や自主防災委員が年に一度交代する輪番制であるため、地域の中でのリーダー育成が必要になっており、今後はまず、任期が２年以上になるように自主防災会を軸に規約を改正するなど、在り方を検討し、地域に根ざした活動を目指していきたい。
事業名	実施主体	対象地域	事業実績
小野郷まちづくりプロジェクト	小野郷自治会	北区 小野郷学区 ※小地域	１ 事業内容 少子高齢化の著しい小野郷地域において、大学をはじめとした関係機関との協働により、地域福祉の観点から地域の活性化を図る。 ２ 実績 小野郷地域福祉の活動を佛教大学社会学部・北区社会福祉協議会・北区役所が連携、協力し、自治会組織である「小野郷地域まちづくり推進委員会」と共に、「小野郷休耕田プロジェクト」を開催した。

			<table><tr><td>H22 4/30</td><td>休耕田での田植え</td><td>参加者 佛教大学生 7 0 名，北区社会福祉協議会，北区役所</td></tr><tr><td>5/16</td><td>さつまいも苗植え・学生との交流会</td><td>参加者 佛教大学生 6 0 名，北区社会福祉協議会，北区役所</td></tr><tr><td>6/20</td><td>ホテルの観賞・地域一斉清掃</td><td>参加者 佛教大学生 4 0 名，北区社会福祉協議会，北区役所</td></tr><tr><td>9/11</td><td>稲刈り</td><td>参加者 佛教大学生 6 0 名，北区社会福祉協議会，北区役所</td></tr><tr><td>10/17</td><td>さつまいも掘り・第 2 回学生との交流会（高齢者生活調査）</td><td>参加者 佛教大学生 5 5 名，北区社会福祉協議会，北区役所</td></tr><tr><td>11/14</td><td>岩戸落葉神社ライトアップ</td><td>参加者 佛教大学生 1 0 名，北区社会福祉協議会，北区役所</td></tr><tr><td>12/19</td><td>「小野郷休耕田プロジェクト」活動報告会</td><td>参加者 佛教大学生 1 1 名，北区社会福祉協議会，北区役所</td></tr></table>	H22 4/30	休耕田での田植え	参加者 佛教大学生 7 0 名，北区社会福祉協議会，北区役所	5/16	さつまいも苗植え・学生との交流会	参加者 佛教大学生 6 0 名，北区社会福祉協議会，北区役所	6/20	ホテルの観賞・地域一斉清掃	参加者 佛教大学生 4 0 名，北区社会福祉協議会，北区役所	9/11	稲刈り	参加者 佛教大学生 6 0 名，北区社会福祉協議会，北区役所	10/17	さつまいも掘り・第 2 回学生との交流会（高齢者生活調査）	参加者 佛教大学生 5 5 名，北区社会福祉協議会，北区役所	11/14	岩戸落葉神社ライトアップ	参加者 佛教大学生 1 0 名，北区社会福祉協議会，北区役所	12/19	「小野郷休耕田プロジェクト」活動報告会	参加者 佛教大学生 1 1 名，北区社会福祉協議会，北区役所
H22 4/30	休耕田での田植え	参加者 佛教大学生 7 0 名，北区社会福祉協議会，北区役所																						
5/16	さつまいも苗植え・学生との交流会	参加者 佛教大学生 6 0 名，北区社会福祉協議会，北区役所																						
6/20	ホテルの観賞・地域一斉清掃	参加者 佛教大学生 4 0 名，北区社会福祉協議会，北区役所																						
9/11	稲刈り	参加者 佛教大学生 6 0 名，北区社会福祉協議会，北区役所																						
10/17	さつまいも掘り・第 2 回学生との交流会（高齢者生活調査）	参加者 佛教大学生 5 5 名，北区社会福祉協議会，北区役所																						
11/14	岩戸落葉神社ライトアップ	参加者 佛教大学生 1 0 名，北区社会福祉協議会，北区役所																						
12/19	「小野郷休耕田プロジェクト」活動報告会	参加者 佛教大学生 1 1 名，北区社会福祉協議会，北区役所																						
			3 活動成果 高齢者と学生さんとの交流会の中で，地域で暮らす高齢者の悩みごとや求めること，地域の良いところなどが聞け，今後の地域福祉活動の方向性が成果として得られた。 また，小野郷まちづくり推進委員会が今年度から，「食品開発部会」「福祉部会」「米・野菜供給部会」の 3 部会構成となり，各事業での役割分担をすることにより，田植えやさつまいもの苗植え等の作業や参加者への配食・学生スタッフの昼食もスムーズになった。 4 事業経費等 助成金額：1 0 0，0 0 0 円 事業経費合計：2 0 7，6 6 6 円 <table><tr><th>支出項目</th><th>支出額（円）</th></tr><tr><td>田植え</td><td>1 0 0，9 9 8</td></tr><tr><td>さつまいも苗植え</td><td>5 0，0 4 6</td></tr><tr><td>ホテル観賞</td><td>7，9 4 7</td></tr><tr><td>稲刈り</td><td>1 4，8 2 0</td></tr><tr><td>さつまいも掘り</td><td>3 3，8 5 5</td></tr></table>	支出項目	支出額（円）	田植え	1 0 0，9 9 8	さつまいも苗植え	5 0，0 4 6	ホテル観賞	7，9 4 7	稲刈り	1 4，8 2 0	さつまいも掘り	3 3，8 5 5									
支出項目	支出額（円）																							
田植え	1 0 0，9 9 8																							
さつまいも苗植え	5 0，0 4 6																							
ホテル観賞	7，9 4 7																							
稲刈り	1 4，8 2 0																							
さつまいも掘り	3 3，8 5 5																							
			5 今後の活動 高齢化と人口減少が続く中，今年度の取組を生かし，安心して暮らせるまちづくりをするため，佛教大学社会福祉学部・北区社会福祉協議会・北区役所の協力を得ながら，地域福祉の充実に向けた事業を「小野郷まちづくり推進委員会」で企画・運営し，小野郷地域の福祉向上と活性化を目指す。																					

事業名	実施主体	対象地域	事業実績		
紫野カルチャー亭 お年寄りもイキイキ！！聞き書きプロジェクト	紫野カルチャー亭運営協議会	北区 紫竹学区 ※小地域	1 事業内容 大学との連携の下、地域の若者や学生が独居高齢者宅を訪問し、高齢者の半生を聞き取り、それを聞き書き集としてまとめる。		
			2 実績		
			H22 7/25	紫野カルチャー亭発足イベント	ラジオ体操、「歩くまち 紫野」（歴史地理学者を迎えて紫野の歴史解説とまち歩き）、紙芝居、映像上映、写真パネル展示、「まち」なカフェを実施した。
			10/2 ～ 10/3	聞き書き講座	聞き書きプロジェクトに応募してきた若者たちが、地域の方に聞き書きをするための講座として、聞き書きの概要から手順やノウハウを学び、聞き書きを体験し、発表した。
			H22.10～H23.2	聞き書き	聞き書き講座に参加した若者が、グループごとに聞き書きの対象となる地域の方に2～4回程度、話を聞きに行き、作品にまとめた。
			12/12	聞き語り講座	聞き書きをしたメンバーが発表会に向けて「語る」心構え、手法を学んだ。
			H23 2/6	聞き書き発表会	各グループがまとめた聞き書き作品を話し手の方や地域の方々の前で発表した。
			その他、「FUNAOKA STANDARD 2010」や「紫野まつり」への参加や「紫野カルチャー亭新聞」の発行や講座チラシを作成し、全戸回覧するなど、広報活動を行った。		
			3 活動成果		
			・紫野学区在住の高齢者を対象に、若者が聞き取りを行い、同学区における地域・産業文化・歴史の変遷を明らかにし、今後、伝承すべき価値を再発見することができた。また、高齢者自身が語るることにより、行政等の調査では顕在化しにくい内容の発見等もあり、最終的に郷土史の編纂を行うことができた。		
・高齢者自身が若者に語るという設定を演出することができ、高齢者自身が人生を振り返り、主体（主人公）となり、物語を紡ぐことができた。					
・核家族化が進む中で、日ごろ高齢者と接する機会が少ない若者や地域とのつながりが希薄な若者が、当プロジェクトに関わることにより、高齢期を生きる人々の生活感・人生観を地域に生きる生活者の実感として、うかがい知ることができた。					
・高齢者、若者、地域が聞き書きプロジェクトを進めるプロセスの中で互いを知り、主体化が促された点は、多様な主体の参画による自治形成を図るうえで、重要な推進要素であった。					

			4 事業経費等 助成金額：150,000円 事業経費合計：353,547円 <table><tr><td>支出項目</td><td>支出額（円）</td></tr><tr><td>講師謝金</td><td>80,000</td></tr><tr><td>旅費</td><td>67,760</td></tr><tr><td>コピー代</td><td>9,780</td></tr><tr><td>印刷製本費</td><td>135,680</td></tr><tr><td>消耗品</td><td>32,308</td></tr><tr><td>通信費</td><td>4,801</td></tr><tr><td>会議費</td><td>22,118</td></tr><tr><td>会場使用料</td><td>1,100</td></tr></table> 5 今後の活動 当プロジェクトで、地域と関わるきっかけを得た若者に、継続的に関わりを持ってもらうと同時に、新たな若者を地域に呼び込むため、引き続き、聞き書きなどの活動を行っていく。 また、活動を進めていく中で、一人暮らしの高齢者への関係形成の難しさと、その方々が、紫野学区において主体となり、安心して暮らすことができる包括的な支援が必要であることに気付いた。今後は、一人暮らし高齢者の生活課題を踏まえた支援方策を考えていきたい。	支出項目	支出額（円）	講師謝金	80,000	旅費	67,760	コピー代	9,780	印刷製本費	135,680	消耗品	32,308	通信費	4,801	会議費	22,118	会場使用料	1,100
支出項目	支出額（円）																				
講師謝金	80,000																				
旅費	67,760																				
コピー代	9,780																				
印刷製本費	135,680																				
消耗品	32,308																				
通信費	4,801																				
会議費	22,118																				
会場使用料	1,100																				
事業名	実施主体	対象地域	事業実績																		
地域交流事業「KYOTO☆R24」～八条坊門楽市・楽座Ⅰ～及び地域高齢者サロン「すこやかサロン（仮称）」事業	崇仁高齢者ネットワーク「うるおいネット」	下京区 崇仁学区 ※小地域	1 事業内容 高齢化の著しい崇仁学区において、住民や関係機関の協働による高齢者ネットワークを発足させ、住民の交流事業の開催や高齢者の居場所・介護予防の場を提供する。 2 実績（主なもの） ①「KYOTO☆R24」～八条坊門楽市・楽座Ⅰ～の開催（平成22年6月13日） ・崇仁学区及び周辺地域の伝統文化の発信 ・うるおいネット、崇仁学区社協、地域包括支援センター、ボランティア、NPO団体等の協働による情報発信 ・地域住民参加型フリーマーケット、地域各種団体による模擬店の設置等 ②「うるおいネット」の高齢者ネットワーク活動の充実発展を崇仁関係機関協働の下で実施 月1回を目処に、「うるおい館」及び「福祉センター」を拠点とした「すこやかサロン（茶話会）」を立ち上げ、地域の高齢者の居場所・介護予防活動の場を創出した（※）。 ※6月23日すこやか茶話会、8月25日準備委員会、9月10日すこやか茶話会、10月25日すこやか茶話会、11月26日すこやか茶話会、12月20日すこやか茶話会																		

			3活動成果 市民や周辺の人々、関係機関との交わりやふれあいを持ち、「共生」の関係を築くために共に汗をかき、心を紡ぐことができた。特に、コミュニティセンター廃止後の新たな地域住民主体及び関係機関協働によるネットワーク活動の中核的、象徴的な事業として実施することができた。 4事業経費等 助成金額：150,000円 事業経費合計：343,621円 <table><tr><td>支出項目</td><td>支出額（円）</td></tr><tr><td>会議費</td><td>2,600</td></tr><tr><td>広報費</td><td>8,000</td></tr><tr><td>印刷製本費</td><td>131,000</td></tr><tr><td>音響等設備費</td><td>20,000</td></tr><tr><td>司会者謝礼</td><td>20,000</td></tr><tr><td>NPO・サークル出演者費用</td><td>101,860</td></tr><tr><td>事業運営費</td><td>60,161</td></tr></table> 5今後の活動 次年度以降も、地域住民・関係機関の協働・共汗の象徴的な事業として、継続的に開催する。 また、地域交流事業を起爆剤にスタートした定期的な高齢者・地域住民の居場所や介護予防事業の取組に関しても、充実発展を進めていく。	支出項目	支出額（円）	会議費	2,600	広報費	8,000	印刷製本費	131,000	音響等設備費	20,000	司会者謝礼	20,000	NPO・サークル出演者費用	101,860	事業運営費	60,161
支出項目	支出額（円）																		
会議費	2,600																		
広報費	8,000																		
印刷製本費	131,000																		
音響等設備費	20,000																		
司会者謝礼	20,000																		
NPO・サークル出演者費用	101,860																		
事業運営費	60,161																		
事業	実施主体	対象地域	事業実績																
一人暮らし（独居）高齢者への「今月のおたより」	桂川福祉ネットワーク	西京区 桂川学区 ※小地域	1事業内容 独居高齢者世帯等に対して実施している安否訪問の際に、コミュニケーションのきっかけづくりとして、「今月のおたより」を発行する。 2実績 学区内の高齢者宅へ「今月のおたより」を毎月の訪問時に持参し、安心感をもらってもらうとともに、お互いの交流・信頼を深め、支援活動も増加した。また、緊急時の対応のため、「安心電話」をつくり、全ての一人暮らしの高齢者に配布した。 3活動成果 当助成によって、「今月のおたより」の誌面がインパクトのある多面的なものとなったとともに、活動目標である高齢者への毎月の訪問が、学区内に広く定着して、訪問者と高齢者の気持ちの繋がりが深まり、相談・支援の増加へと結び付いた。																

			4 事業経費等 助成金額：33, 500円 事業経費合計：67, 733円（支出項目〔印刷費：67, 733円〕） 5 今後の活動 一人暮らしの高齢者のみならず、夫婦世帯や家族と同居する高齢者の中でも、「気がかりな」要配慮者の相談・支援へ繋げるため、「今月のおたより」をきっかけに足を運び、話し合いを重ねていき、災害時でも役立つように取り組んでいきたい。						
事業名	実施主体	対象地域	事業実績						
川岡学区独居高齢者が地域で安心安全に暮す為の地域福祉推進事業	川岡学区民生児童委員協議会	西京区 川岡学区 ※小地域	1 事業内容 独居高齢者の病歴や服用薬などの医療情報や親族等の緊急連絡先を記載した用紙を容器に入れて、冷蔵庫に保管することにより、自宅で倒れた場合に迅速かつ適切な処置を可能とする。 2 実績 川岡学区の独居高齢者世帯220軒を対象に、民生委員、老人福祉員と各担当地域を訪問して「救急医療情報キット」の趣旨を説明し、本人が了解したうえで、身内の方々に、救急医療情報（安心カード）の作成をお願いし、各家庭の冷蔵庫に保管してもらった。 3 活動成果 「救急医療情報キット」を設置してもらうことにより、本人と身内の方の安心感が増したという感想が寄せられた。 4 事業経費等 助成金額：50, 000円 事業経費合計：137, 635円 <table><tr><td>支出項目</td><td>支出額（円）</td></tr><tr><td>救急医療情報キット代</td><td>135, 135</td></tr><tr><td>コピー代</td><td>2, 500</td></tr></table> 5 今後の活動 高齢者世帯が急激に増加する中、災害時や急病時のことを考慮すると、障害者世帯、認知症世帯等にも活動の対象を広げていく必要がある。年1回は、「救急医療情報キット」の内容を更新する必要がある。民生委員、老人福祉員は、独居以外の高齢者世帯にも必要と認識した場合、「救急医療情報キット」の説明をし、その設置に努めていく。	支出項目	支出額（円）	救急医療情報キット代	135, 135	コピー代	2, 500
支出項目	支出額（円）								
救急医療情報キット代	135, 135								
コピー代	2, 500								

事業名	実施主体	対象地域	事業実績
地域福祉 ふれあい事業	藤森学区社会福祉協議会	伏見区深草 藤森学区 ※小地域	1 事業内容 「団塊の世代の地域デビュー支援」として当団体主催の取組へ、地域の団塊の世代の参加を呼び掛け、地域福祉の担い手の発掘を行う。
			2 実績 ①福祉祭りあじさいの集い（平成22年6月17日）参加人数：約3,000人 藤森神社境内にて、地域の各種団体と協力し、開催した結果、子どもからシルバー世代まで多世代の参加があった。作業所による野菜販売、地域住民による、うどん販売や保育園及び高齢者団体のステージ発表等が行われた。
			②福祉夏祭りカレー（平成22年7月10日）参加人数：約700人 小学校運動場にて、社協関係者が協力して「手作りカレーの食事会」を開催。体育館では、地域の方の指導による「ペン立て作り」を行った。
			③福祉ふれあいもちつき（平成22年12月11日）参加人数：約800人 地域のシルバー世代の方による子どもたちへのもちつきを行った。
			3 活動成果 ・定年退職をされた地域の団塊世代の大人たちに各種行事への協力を呼び掛け、準備から当日の運営を担っていただき、地域の担い手の一員となってもらった。 ・長い人生経験の中で養ってきた経験、特技、趣味を子どもたちに伝え、披露することにより、ゆるやかではあるが、有意義な地域デビューの機会となった。 ・子どもにとって、地域の方と顔と顔が見える関係が生まれ、地域で年配の方と触れ合う楽しさ、素晴らしさを感じ、地域で育つ一人としての自覚を養うことができた。
			4 事業経費等 助成金額：150,000円 事業経費合計：561,186円

	支出項目	支出額（円）
福祉祭りあじさいの集い	保険料	4,300
	会場設営費	368
	食材費	326,956
	会議費	5,400
	消耗品	7,934
	広告印刷費	7,900
	光熱費	6,600
	郵送費	3,600
	賃借料	50,000

			<table><tr><td></td><td>支出項目</td><td>支出額（円）</td></tr><tr><td rowspan="3">福祉夏祭りカレー</td><td>材料費</td><td>42,916</td></tr><tr><td>保険料</td><td>1,980</td></tr><tr><td>備品費</td><td>525</td></tr><tr><td rowspan="5">福祉ふれあいもちつき</td><td>光熱費</td><td>5,400</td></tr><tr><td>食材費</td><td>88,721</td></tr><tr><td>保険料</td><td>5,300</td></tr><tr><td>消耗品</td><td>296</td></tr><tr><td>器具什器</td><td>2,790</td></tr></table> 5 今後の活動 事業を継続させ、地域デビューをしていただいたシルバー世代の方が、この催しをきっかけに、更に地域福祉の活動に協力いただけるようにする。 これまで、経験や知識・技術が子どもたちをはじめとして、地域の住民の方々に幅広く生かされることを目指す。		支出項目	支出額（円）	福祉夏祭りカレー	材料費	42,916	保険料	1,980	備品費	525	福祉ふれあいもちつき	光熱費	5,400	食材費	88,721	保険料	5,300	消耗品	296	器具什器	2,790
	支出項目	支出額（円）																						
福祉夏祭りカレー	材料費	42,916																						
	保険料	1,980																						
	備品費	525																						
福祉ふれあいもちつき	光熱費	5,400																						
	食材費	88,721																						
	保険料	5,300																						
	消耗品	296																						
	器具什器	2,790																						
事業名	実施主体	対象地域	事業実績																					
おやじとふれあい木工教室	小栗栖宮山小学校 おやじの会	伏見区醍醐 小栗栖宮山学区 ※小地域	1 事業内容 団塊の世代の方に当事業への参加を呼び掛け、その知識・技術を活かして「生きがい」を見つける支援を行う。 2 実績 ・「おやじの会」事前打ち合わせ（平成22年4月30日） ・企画調整会議の開催（平成22年5月14日） ・広報活動（チラシを用いて校区内での広報）（平成22年9月～10月） ・第1回「おやじとふれあい木工教室」開催（平成22年10月23日） ・第2回「おやじとふれあい木工教室」開催（平成22年11月20日） ・第3回「おやじとふれあい木工教室」開催（醍醐環境フェアにて）（平成23年1月23日） ・第4回「おやじとふれあい木工教室」開催（平成23年2月6日） ※参加人数延べ530名 3 活動成果 木工を通して、地域の子どもたちとおやじの交流を始め、わずかではあったが、団塊の世代の地域デビューにも貢献することができた。 4 事業経費等 助成金額：150,000円 事業経費合計：303,560円																					

			<table><tr><td>支出項目</td><td>支出額（円）</td></tr><tr><td>会議費</td><td>2, 4 5 1</td></tr><tr><td>機材購入費</td><td>2 3 7, 2 7 0</td></tr><tr><td>印刷費</td><td>1 8, 9 0 0</td></tr><tr><td>材料費</td><td>4 4, 9 3 9</td></tr></table> 5 今後の活動 子育てを他人に任せる親を育成するのではなく、まず親が子育てをし、「地域のおやじたち」が支援する方向へもっていきたかったが、そのためには、親子で木工を楽しむ時間を多く設けるべきであったところが反省点である。 当教室は、無料で開催したが、これからは若干の参加費を徴収することにより、地元負担を軽減させて、活動を継続させていきたい。また、団塊の世代のデビューにとどまらず、老人クラブや高齢者の方々の持つ技術を生かせる場としても考えていきたい。	支出項目	支出額（円）	会議費	2, 4 5 1	機材購入費	2 3 7, 2 7 0	印刷費	1 8, 9 0 0	材料費	4 4, 9 3 9
支出項目	支出額（円）												
会議費	2, 4 5 1												
機材購入費	2 3 7, 2 7 0												
印刷費	1 8, 9 0 0												
材料費	4 4, 9 3 9												
事業名	実施主体	対象地域	事業実績										
高次脳機能障害者支援事業	頭部外傷や病気による後遺症を持つ若者と家族の会	全市域 ※広域	1 事業内容 高次脳機能障害のある方に居場所を提供するとともに、地域との主体的なかかわりを持つために、紙芝居を制作し、福祉施設との交流なども行う。 2 実績 平成21年6月に当事者が集まって、「つくしの会」という当事者組織が発足し、以後、当事者が積極的に交流して毎週定期的に集まるようになった。そこで、共同作業によるデジタル紙芝居の作成の案が出て、各自が紙芝居の絵を描くところから取り掛かり、活動が始まった。最終的に完成にこぎつけたものの、更なる練習を重ね、豊かな紙芝居を通じて、地域の老人施設や障害者施設に慰問事業を展開することを今後の課題テーマにしていく予定である。 3 活動成果 紙芝居は絵を描くこと、話すこと、音楽に興味を持つことなど、大変に有意義な作業だと考えて、それをパソコンでデジタル紙芝居にしようと提案したところ、音楽療法士、言語療法士の先生方の協力もあって、当事者が心を合わせた共同作業とすることができた。 また、各自の役目をしっかりと認識して、紙芝居の役柄になりきり、一生懸命な姿を見ることができた。努力すること、責任を持つことなど、そして、仲間を大切にして、人間関係を良くすることに注意しながら、互いを尊重して紙芝居作業が続いたことは驚きだった。何よりも、当事者の心の込められた作品ができて楽しいという経験は、家族にとっても、喜びである。こうした一生懸命に生きる姿があることに改めて気付くことができた。 4 事業経費等 助成金額：300, 000円 事業経費合計：649, 745円										

支出項目	支出額（円）
通信費	215,277
会議室使用料	26,590
消耗品費	87,878
講師謝礼	320,000

5 今後の活動

今後、作品を多くして、積極的に地域の各施設に慰問に出かけて行くことを目標にしたい。

初めは小規模だった「つくしの会」が現在、NPO法人高次脳機能障害支援「つくしの会」にまで、発展してきた。当事業は、京都府下では初めてで、京都市のみならず、府内の当事者の心のよりどころになることを望むとともに、今後、紙芝居を通じて高次脳機能障害の啓発にも力を入れていきたい。

事業名	実施主体	対象地域	事業実績
外国人母子をこ とばで支援する コミュニティ通 訳（医療・行政 通訳）の育成	NPO 法人 多文化 共生センターきよ うと	全市域 ※広域	1 事業内容 日本語を解さない外国人が日本で妊娠・出産する際の支援を行うべく、専門通訳者（中国語）の養成を行う。 2 実 績 ・講座企画・広報開始（22年4月～22年6月） ・専門医療通訳者養成研修 対象言語：中国語（期間：22年10月15日～12月17日） 回数：全17講座（約36時間） 内容：母子保健における、在住外国人の現状と課題、通訳理論、通訳技術、母子に関する医療知識、母子保健サー ビス、行政サービス、ロールプレイ、事例研究、子どもの発達 ・認定テストの実施、選考（22年12月17日） ・認定者への実践研修（23年2月～3月） 参加者数22名（認定者6名） ※23年4月から外国人ママのための医療通訳派遣事業を開始 3 活動成果 ・研修に携わる講師は、医療や行政等の各現場関係者とし、坐学ばかりではなく、産婦人科医院での現場研修等も取り 入れて、より実践的な内容とした。また、周産期だけではなく、乳幼児期の場面でもサポートしてほしいというニーズ があり、当初予定よりも対応範囲を拡大して、人材育成を行った。 ・医療通訳者として活動している通訳者はいなかったが、語学力は高く、講座を通して母子に関する知識や在住外国人 の現状、通常通訳との違い、在住外国人に対するサポートの必要性を理解することで、より専門性が高まった。 ・講座終了後、定期的に実際の派遣場面を想定した研修を行い、23年3月から中国語でのモニター派遣（無料）をス タートすることができた。

		 <
--	--	---

→児童文学の分野や病院での読み語り活動を長年続けている講師を招き、絵本やおはなしを媒体としたボランティアについて学ぶ良い機会となった。

3 活動成果

子どもに関するボランティアをこれから始める方にはきっかけとして、またすでに活動されている方には、ブラッシュアップとして活用してもらう機会となった。

第1部では、保育サポーターに必要な視点や実際の事故についての知識習得に始まり、子どもの育ちに必要な「多文化共生」と「人権」について考える場となり、参加者からは事故を見つめ、援助者・被援助者の関係性に気づき、現代社会で孤立しがちな子育ての現状を改めて意識したという感想を得た。

第2部では、「ボランティア」としての心構えを押さえたうえで、絵本の読み語りに関する基礎知識から子どもたちを前にして読み語るときの工夫や注意など、実践的なノウハウに至るまで、様々な視点からのアプローチにより、実際に現場を持つ方から、「実践に即使える」という声をいただき、参加者の満足度の高い講座となった。

4 事業経費等

助成金額：253,050円

事業経費合計：507,162円

支出項目	支出額（円）
講師謝礼	232,340
交通費	69,000
保険加入費	15,000
印刷費	80,400
通信費	43,841
資料購入費	32,620
備品費	47,461

5 今後の活動

当講座・研修を通じて、京都YWCAやその他の現場で活動する者にとっては、その活動を改めて見直し、より発展させる具体的な構想を描く機会となった。活動をこれから始める者にとっては、初めの一歩として、京都YWCAの「保育サポーター」や「親子ライブラリーおはなしボランティア」の登録につながり、そこから各々の活動場所が広がることが期待される。親子を取り巻く環境は、日々変化しているので、ニーズを敏感に感じ取り、社会に向けて発信することも視野に入れた講座の開催を、今後も継続して検討する。